

ハベナリア・メデューサかハベナリア・ミリオトリカか

夏井高人 (カラー 4 ページ)

ハベナリア・メデューサはとても美しい花を咲かせるランだ。茨城のTさんから分けていただいたものを大事に育てている。今年も無事に開花した。

ところが、ハベナリア・メデューサの分類・命名には異説があり、若干の混乱があるようだ。そこで、ちょっと調べてみた。

まず、産地等によってハベナリア・メデューサ (*Habenaria medusa* Kränzlin 1893) とハベナリア・ミリオトリカ (*Habenaria myriotricha* Gagnepain 1931) を分けて考える説がある (Seidenfaden の初期の説)。この説によれば、ハベナリア・メデューサは、インドネシア (ジャワ, スマトラ, スラウェシ, ボルネオ) に産するのに対し、ハベナリア・ミリオトリカはラオス, ベトナム南部, タイに産し、ハベナリア・メデューサよりも大きいということだ。この説の場合、ハベナリア・メデューサとハベナリア・ミリオトリカとは別種であることになるので、相互に異名 (Synonym) ではない。

しかし、ハベナリア・メデューサとハベナリア・ミリオトリカとを分けずに同一の種とする考え方もある (Seidenfaden の後期の説)。この説の場合、国際命名規則に従い、歴史的に先の命名であるハベナリア・メデューサ (*Habenaria medusa* Kränzlin 1893) が優先する結果、ハベナリア・ミリオトリカ (*Habenaria myriotricha* Gagnepain 1931) はハベナリア・メデューサの異名であることになる。同様に、下記の名前は全てハベナリア・メデューサの異名となる。

Fimbrorchis medusa (Kränzlin) Szlachetko 2004

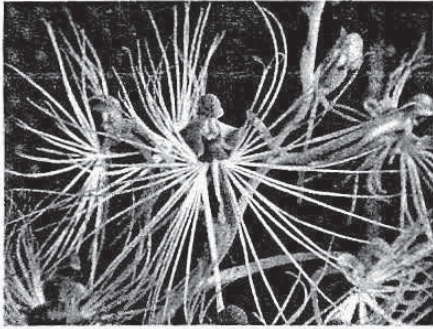
Fimbrorchis myriotricha (Gagnepain) Szlachetko 2004

Fimbrorchis myriotricha var. *confluens* (Gagnepain) Szlachetko 2004

要するに、別種と考える場合でも、同一種と考える場合でも、ハベナリア・メデューサが存在することになり、同一種であるという説では、ハベナリア・ミリオトリカという名を使うべきではないということになる。

面倒な問題だが、いずれ遺伝子解析によって客観的な答えが出される日が来るだろう。

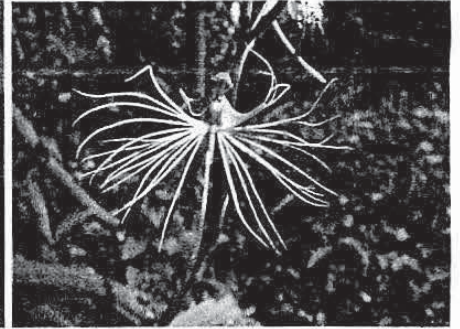
ところで、ハベナリア・メデューサには個体差があるように思われる。その差異は、花の中心部の色において顕著に現れる。すなわち、ハベナリア・メデューサの花の唇弁基部は赤茶色をしている。ところが、開花するとすぐに赤茶色になる個体と、開花直後には白色をしているのだが時間を経ると次第に赤茶色に変化するものがあるようなのだ。



最初から赤茶色になる個体



白色から赤茶色に変化する個体 (左: 開花直後 右: 開花の翌日)



(カラー写真は 4 ページ)

このような差異は、もしかすると産地が異なることによって生ずる差異であって個体差ではないのかもしれないが、判然としない。産地が異なるかもしれないと考える理由は、開花時期の相違に基づく。白色から赤茶色に変化する個体は、9月中旬以降に開花する。これに対し、最初から赤茶色の個体は、10月に入ってから開花する。しかし、判然としないという理由は、どちらもTさんから頂戴したものだということだ。Tさんが同一株から増やしたのか、異なる株の混合状態から増やしたのかは知らない。とはいえ、結局、個体差に過ぎないのかもしれない。

以上の次第で、ハベナリア・メデューサは、やはり謎の多いランであり続けているように思う。

[参考文献]

The genus *Habenaria* (Orchidaceae) in Thailand

Hubert Kurzweil, THAI FOR. BULL. (BOT.), SPECIAL ISSUE: 7-105. 2009.

http://web3.dnp.go.th/botany/PDF/TFB/TFB37_1/02.pdf

Orchid Research Newsletter No. 45 (January 2005)

<http://www.kew.org/herbarium/orchid/orn45.pdf>